

行政視察報告書（創生会）

提出日： 令和7年5月12日

議員名	広瀬和彦、棗田澄子、三藤毅、真田光夫
日時	令和7年5月7日（水）
相手先・場所	首相官邸（東京）
内容	石破総理表敬訪問及び要望
成果・所感等	
<p>(1) 視察で感じたこと</p> <p>件名： 首相官邸訪問および特別交付税に関する要望について</p> <p>1. 概要</p> <p>首相官邸を訪問し、石破総理に対し府中市の財政の現状について説明を行いました。併せて、市が抱える3公立病院の維持運営に伴う財政的負担の大きさについても訴え、特別交付税の増額を要望いたしました。</p> <p>2. 所感・今後の対応</p> <p>今後は、市長を含め地元国会議員と総務省や各省庁への働きかけを継続して行ってまいります。</p>	
議員名	広瀬和彦、棗田澄子、三藤毅、真田光夫
日時	令和7年5月8日（木） 午前10:00～
相手先・場所	文部科学省 初等中等教育局教育課程課 課長補佐 荻野 雅裕
内容	「GIGAスクール、生成AI時代の学習指導要領改訂を考える」
成果・所感等	
<p>(1) 取り組み内容（聞き取り内容）と所感</p> <p>現代社会の急激な変化を背景に、次期学習指導要領が果たすべき役割と教育の方向性について学びました。少子高齢化やグローバル化、デジタル化の進展、価値観の多様化、そして人生100年時代の到来により、教育に求められる力も大きく変化しています。子どもたちは、自分の良さや可能性を認識し、他者と協働しながら変化の時代を生き抜く力を育むことが求められます。</p> <p>特に「学ぶ意欲」「学び続ける力」「自己理解」「読解力の向上」が重要視されており、不登校や学力格差などの課題に対応するために、府中市では「らんさぼ」など多様な学びの場の整備が進められています。また、教科書内容の増加や教師の働き方改革、デジタル教材の活用など、学校現場の改革も必要とされています。</p> <p>教育は「まちづくりの根幹」であり、今後は府中市の教育を地域の魅力として発信するプロモーション戦略も必要であると提案されました。</p> <p>所感</p>	

教育が未来の社会を築くための最も根幹的な営みであることを改めて実感しました。人口減少や多様性の拡大、AI 社会の到来といった社会変化に対応するには、単に知識を詰め込む教育では不十分であり、「自分で問いを立て、学び続ける力」がますます重要になります。

府中市の「らんさぼ」や放課後の新たな学びの場の構想は、こうした時代の要請に的確に応えるものであり、非常に意義深い取り組みです。同時に、教育は短期間で成果が見えづらいため、結果を急がず、丁寧に施策を積み重ねることが大切だと感じました。

また、教育の魅力を市外に伝えることで人を呼び込む「戦略」としての教育政策の必要性も強く感じました。

創生会として、教育現場の声を丁寧に受け止め、財政や施設整備面でもしっかりと支援を行いながら、まち全体で子どもを大切にす文化を育てていきたいと思いました。